

科目区分：学校教育実践コース（家政教育専修），生活環境コース

授業科目名：食物学

教育学部の学生に適した「食物学」の授業形態

家政教育講座 岡本威明

1. 授業の概要とねらい

授業科目「食物学」は、家庭科教員免許の必修科目であり、食生活の基本となる食品成分と栄養の基礎知識について講義している。特に、五大栄養素については必ず理解してもらうことにしている。授業に関連する DP として、DP1（知識・理解）、DP2（思考・判断）を掲げた。今年度は、授業前に小テストを実施し、学生からのコメントシート（質問）に毎時間積極的に答えていく学生参加型の丁寧な授業形態を試みた。

2. 受講生について

受講生は教員養成系の学生が 10 名（家政専修より 5 名、教育学専修より 3 名、教育心理専修より 1 名、国語専修より 1 名）、生活環境コースの学生が 20 名登録し、合計 30 名の受講があり、最終授業まで 30 名の受講は保持された。教員個別の授業アンケートは最後の筆記試験の時間に実施し、30 名全員分を回収した。また学生による DP と対応づけた授業評価調査は、1 月 11 日に実施し 29 名分を回収した。

3. 授業アンケートの質問事項

授業アンケートは、選択式（5 項目）と記述式（3 項目）に分けて行った。

選択式の評価は、そう思う（非常に良い）、ほぼ思う（良い）、どちらともいえない（普通）、そう思わない（悪い）、まったく思わない（非常に悪い）の 5 段階で評価してもらった。選択式は、

- A) 授業に出席し、授業を積極的に受講しましたか。
- B) 授業は、あなたにとって満足なものでしたか。
- C) 授業の内容は食生活に必要な知識を提供していると感じましたか。
- D) 授業を受け食生活を送る上で食品成分に関する知識は重要と感じましたか。
- E) 授業の内容をこれから食生活に生かそうと考えていますか。

の 5 項目について質問をした。記述式による評価は、自分自身の食生活に生かすことができると感じた点はどこですか 授業を受けて大切だと感じた点はどこですか その他（授業等の感想）の 3 項目について質問をした。

4. 授業アンケートの結果

【選択式（5 項目）に関して】

A)の質問結果：そう思う 18 名、ほぼ思う 10 名、どちらともいえない 2 名、そう思わない 0 名、全くそう思わない 0 名。

「そう思う」「ほぼ思う」と答えた学生の合計が全体の 93% となり、9 割以上の学生が授業を積極的に受講できたと答えていた。よい結果であった。

B)の質問結果：そう思う 19 名、ほぼ思う 10 名、どちらともいえない 1 名、そう思わない 0 名、全くそう思わない 0 名。

「そう思う」「ほぼ思う」と答えた学生の合計が全体の 97% となり、学生にとって満足度の高い授業になっていた。

C)の質問結果：そう思う 19 名、ほぼ思う 10 名、どちらともいえない 1 名、そう思わない 0 名、全くそう思わない 0 名。

丁度、授業の満足度と完全一致する結果が得られ、ほぼすべての学生が食生活に必要な知識を提供する講義であると感じていた。喜ばしい結果と感じた。

D)の質問結果：そう思う 21 名、ほぼ思う 9 名、どちらともいえない 0 名、そう思わない 0 名、全くそう思わない 0 名。

「そう思う」「ほぼ思う」と答えた学生が受講者全員であり、全学生が食生活を送る上で食品ならびに食品成分に関する知識の重要性に関して再認識してくれたと思っている。大学生の食生活が欧米化し、その乱れが問題となっている中で、本結果は、大変有意義であると感じている。

E)の質問結果：そう思う19名，ほぼ思う11名，どちらともいえない0名，そう思わない0名，全くそう思わない0名。

受講生全員が，「そう思う」「ほぼ思う」と答えており，授業で得た知識を今後の食生活に役立たせて頂きたいと願っている。

【記述式3項目の結果】

自分自身の食生活に生かすことができると感じた点を，87%の学生が記述した。

特に，ビタミンの分野が食生活に生かすことができると答えた学生が約半数に上った。その他にも様々な意見を聞くことが出来た。学生の具体的な意見を以下に示す。

- ・ どの食材をどのくらい食べることで必要なビタミンをどの程度摂取できるのかを考えた点。
- ・ それぞれのビタミンの特徴(欠乏症など)を詳しく知ることができた点。
- ・ 自分が疲れやすいのでビタミンB₁を多く摂取するようにしたい。またPCを使う機会が多く，目に負担をかけているのでビタミンAの摂取も心がけたい。
- ・ 特にビタミン分野を学ぶことは，食事で栄養管理を実行するための第一歩だと思う。
- ・ 栄養素の区分や，どのような食品にどんな栄養素が含まれているかを知り日常的な食生活にも応用することができる点。

授業を受けて大切だと感じた点を，93%の学生が記述した。

食に関して正しい知識を得て，その知識を生かして実践することが大切だと答えた学生が4割を占めた。その他にも様々な意見が見受けられた。学生の具体的な意見を以下に示す。

- ・ 食物に関する基本的な知識の取得と日々の食生活に対し意識を持って考えること。ビタミンや脂質，糖などの知識をしっかりと持っていることで初めてバランスの良い食事を考えられると思う。さらに自分の健康を考えることにも繋がる。
- ・ 学ぶことで次にどのような食生活を組み立てるかを考えることができる。
- ・ 正しい知識に基づいて摂取する食品を選ぶ必要があるということ。
- ・ なんとなくこうなるのではなく，こんな構造だからこうなる，と分かって考えるよ

うになった。

・ コメントシートに皆が書いているものを一つ一つ取り上げて先生が質問に答え，実生活での食生活の疑問を解決したこと。

その他(授業等の感想)について，93%の学生が記述した。学生の具体的な意見を以下に示す。

- ・ 最初は化学が大の苦手なので授業についていけるか不安でしたが，実生活と結びつけられた講義で分かりやすく楽しかったです。学生の質問に対して丁寧に答えてくれたのでわからないまま授業が進むことはほぼなかった。
- ・ 詳しい資料や毎回の小テストなどを通じて少しずつ理解していくことができた。
- ・ 最初は化学の知識が少なくついていくのがしんどい気がしたが，授業でオリーブオイルやチョコレートの話など自分が親近感をもつことのできる話題を取り上げてもらったので徐々に楽になってきた。ビタミンや脂質など，自分の「食」と結びつけて考えていくこともでき，とても満足した。
- ・ 疑問を授業で解決してくれるので，とてもわかりやすかった。また，授業で答えてくれるので積極的に質問ができたと思う。

【学生によるDPと対応づけた評価結果】

各種DPの平均点数は，DP1:3.76，DP2:3.14，DP3:3.17，DP4:3.38，DP5:2.79であり，DP1およびDP4が高値を示した。

5.総括

学生が授業に対して積極的に取り組み，高い満足度をもたらした要因として，小テストの実施や学生のコメントシートに積極的に答えるという学生参加型・共有型の時間を毎授業25分～30分程度導入したのが影響したのではないかと感じた。学生の成績も平均82.8点と高く，標準偏差7.6点と得点分布のバラツキも少なかった。専門的知識の習得を目標としたDP1に対しては3.76と概ね目標を達成できたかと感じているが，DP2やDP4領域に関しては，アンケート結果を生かしてさらに向上させていきたい。これからは，教育学部の学生に適した授業形態を構築し，「食物学」の授業をさらに充実化させていく予定である。